

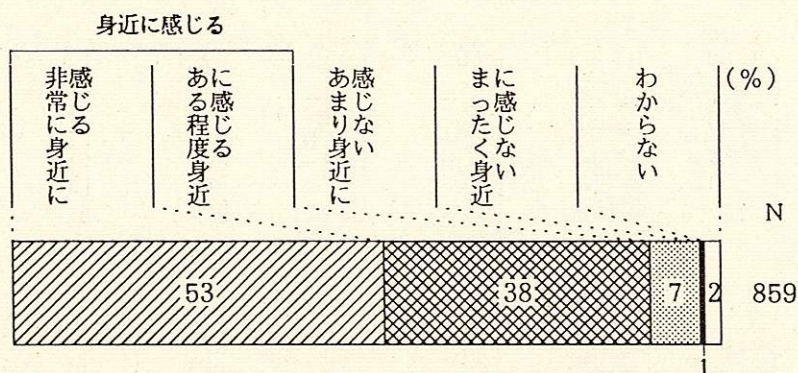
8. ゴミ減量とリサイクル

8-1. ゴミ問題に対する関心

◎9割以上の人が「身近に感じている」。

問19 現在、家庭や事業所から出される「ゴミ」が社会問題となっていますが、あなたは、この問題をどの程度身近にお感じになりますか。

図8-1



最近環境問題への関心の高まりとともに、「ゴミ問題」また資源の「リサイクル」の問題が新たな社会問題として全国的にクローズ・アップされている。そこで今回新たに「ゴミ問題」と資源の「リサイクル」問題について質問を試みた。

まず、「ゴミ」の問題一般についての関心度を尋ねてみた。「ゴミ」の問題を「非常に身近に感じる」という人は53%、「ある程度身近に感じる」という人は38%で、合わせて91%の人が「身近に感じている」ことになる。「あまり身近に感じない」という人は7%で、「まったく身近に感じない」という人は1%である（図8-1）。

「非常に身近に感じる」、「ある程度身近に感じる」を合わせて、男性では88%、女性では92%であり、女性のほうが若干関心度が高くなっている（図8-2）。

男性の場合、20歳代で比較的関心度が低く、年齢の上昇とともに関心度が高まり、50歳代（94%）を頂点として、それ以降の年齢層ではまた低くなるという傾向が見られる。女性の場合も、20歳代で比較的関心度が低い傾向が見られるが、もっとも関心度が高いのは30歳代（99%）である。また、男女とも50歳代では「非常に身近に感じる」という強い関心を示す人（男女ともに69%）が多くなっている。逆に無関心度が目立つのは、20歳代の男性で、「あまり身近に感じない」、「まったく身近に感じない」を合わせて19%に達している（図8-2）。

職業別では、専業主婦（97%）で関心が高くなっている（図8-3）。

図8-2 性別・性年齢別 ゴミ問題に対する関心

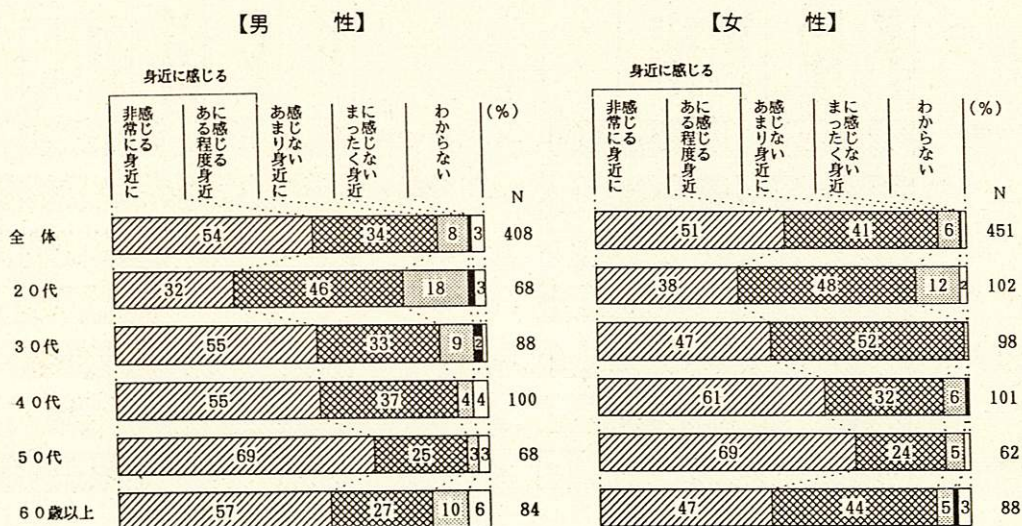
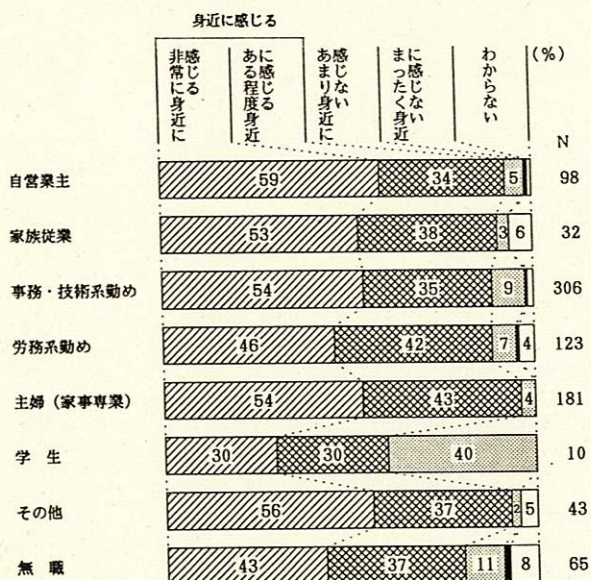


図8-3 職業別 ゴミ問題に対する関心



住居形態との関係を見てみると、関心度のもっとも高いのは「公団、公社、公営の賃貸住宅」に住んでいる人（96％）である。さらに、持ち家・借家を問わず、「一戸建」の家に住んでいる人の関心度が高い（図8-4）。

地区別では、Fブロック（81％）で関心度が比較的低くなっているが、それは無関心な人が多いというよりも「わからない」という答え（8％）が多くなっているためである（図8-5）。

図8-4 住居形態別 ゴミ問題に対する関心

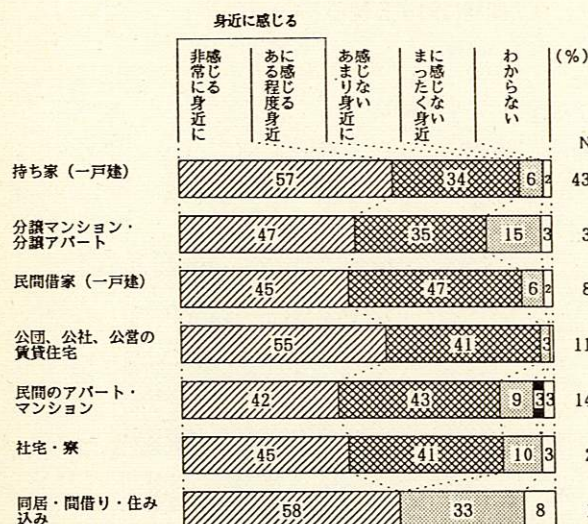
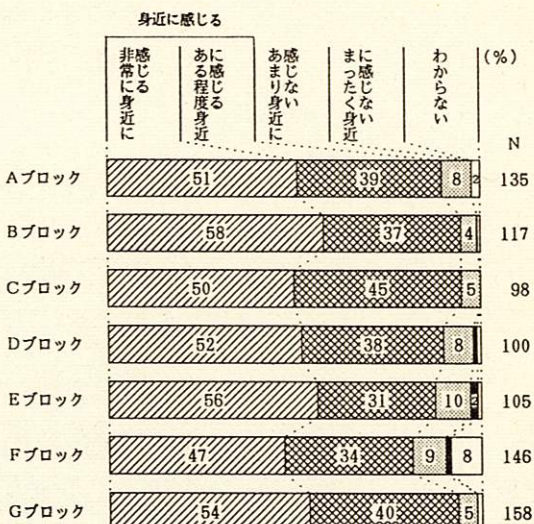


図8-5 地区別 ゴミ問題に対する関心

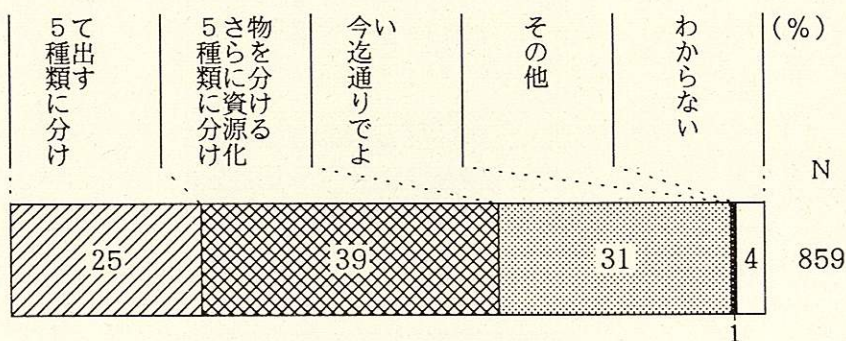


8-2. ゴミの分類についての考え方

◎「5種類に分けさらに資源化物を分ける」べきという人が39%。

問20 福生市のゴミは4種類（可燃、不燃、有害、粗大）に分けて出すことが原則となっています。ゴミの減量をするため、ゴミの分類について、どうお考えになりますか。この中から1つだけ選んでください。

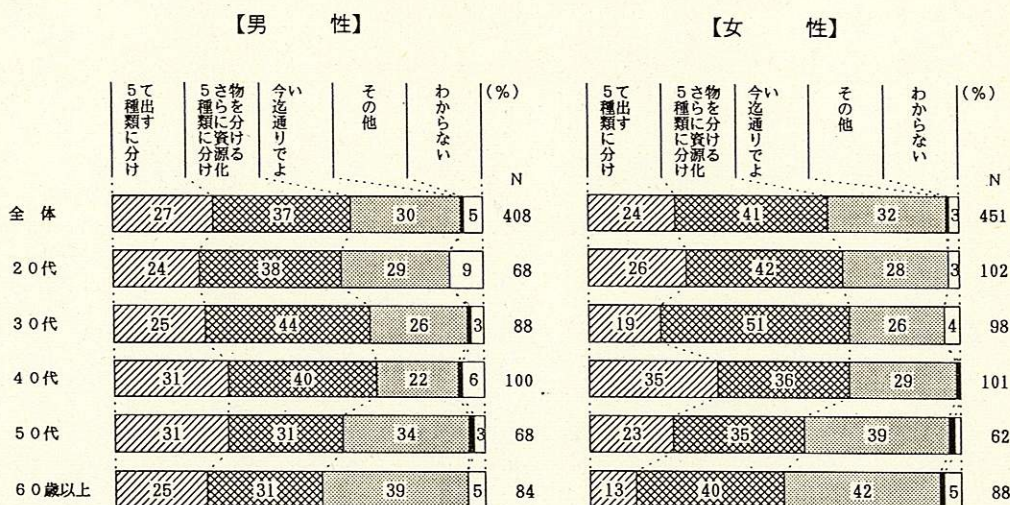
図8-6



ゴミの分類について、「5種類に分けて出す」べきだという人は25%、「5種類に分けさらに資源化物を分ける」べきだという人は39%、「今迄通りでよい」という人は31%である（図8-6）。

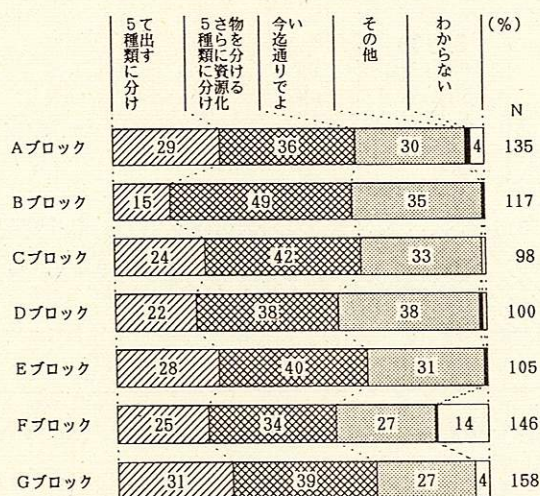
「さらに資源化物を分ける」という人は、男性よりも女性に若干多く、とくに30歳代の女性では51%に達している。「5種類に分けて出す」という人は、40歳代の女性（35%）、40歳代、50歳代の男性（いずれも31%）で目立っている（図8-7）。

図8-7 性別・性年齢別 ゴミの分類についての考え方



地区別では、「さらに資源化物を分ける」という答えはBブロック（49％）で、「5種類に分けて出す」という答えはGブロック（31％）で、「今迄通りでよい」という答えはDブロック（38％）とBブロック（35％）で目立っている（図8-8）。

図8-8 地区別 ゴミの分類についての考え方

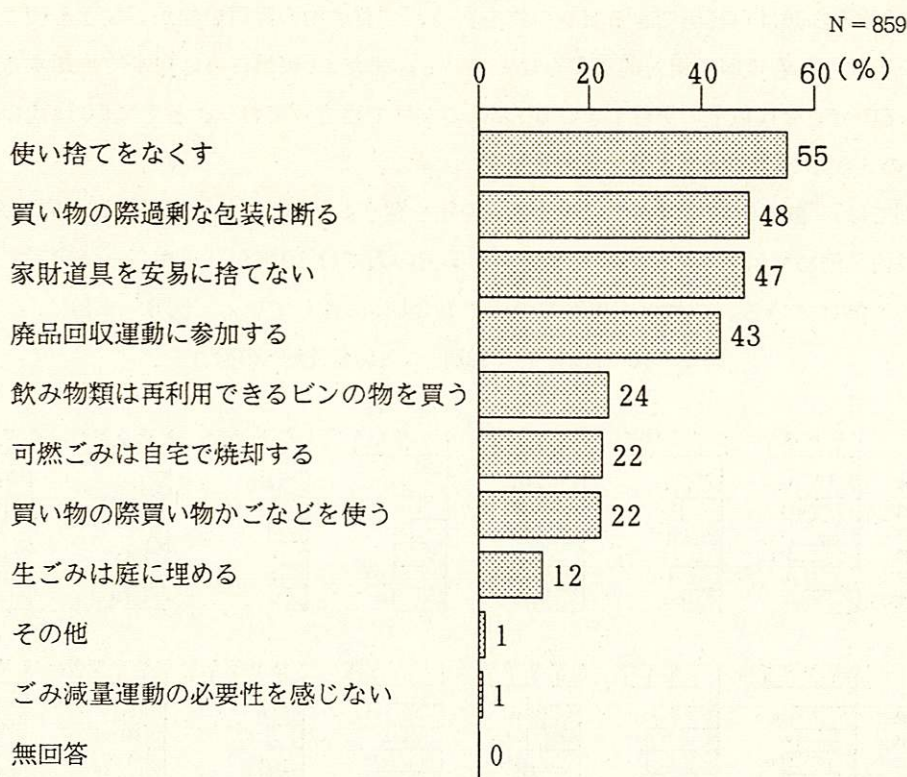


8-3. ゴミ減量運動への協力

◎「使い捨てをなくす」が1位、「過剰な包装は断る」が2位、「家財道具を安易に捨てない」が3位。

問21 あなたは、ゴミ減量運動の協力方法として、どのようなことに協力できますか。この中から、いくつでもあげてください。

図8-9



「ゴミ減量運動」への協力方法としてもっとも多かったのは、「使い捨てをなくす」こと（55 %）である。次いで、「買い物の際過剰な包装は断る」（48 %）、「家財道具を安易に捨てない」（47 %）、「廃品回収運動に参加する」（43 %）、「飲み物類は再利用できるビンの物を買う」（24 %）、「可燃ごみは自宅で焼却する」、「買い物の際買い物かごなどを使う」（22 %）、「生ごみは庭に埋める」（12 %）となっている。なお、「ごみ減量運動の必要性を感じない」という人はほとんどいなかった（図8-9）。

「過剰な包装は断る」ことと「廃品回収運動に参加する」ことは、女性のほうが男性よりも10ポイント以上多くなっている。

性・年齢別で見ると、「過剰な包装は断る」という人は、50歳代以下の女性でとくに顕著である。その中でも、40歳代以下では60%以上の人が挙げている。「廃品回収運動に参加する」ことは、40歳代の女性(61%)でもっとも多くなっている。しかし、男女とも若年層では比較的少ない。「飲み物類は再利用できるビンの物を買う」、「買い物の際買い物かごなどを使う」という人は、男女とも若年層で相対的に多くなっている。また、「可燃ごみは自宅で焼却する」という人は、50～60歳代以上の男性および50歳代の女性で目立っており、とくに50歳代の女性では40%の人が挙げている(図8-10)。

職業別では、「飲み物類は再利用できるビンの物を買う」という人は、専業主婦、労務系勤め、事務・技術系勤めで目立っている。また、自営業主の人では39%が「可燃ごみは自宅で焼却する」ことを挙げている。これは家族従業の人でも34%に達している(図8-11)。

図8-10 性別・性年齢別 ゴミ減量運動への協力

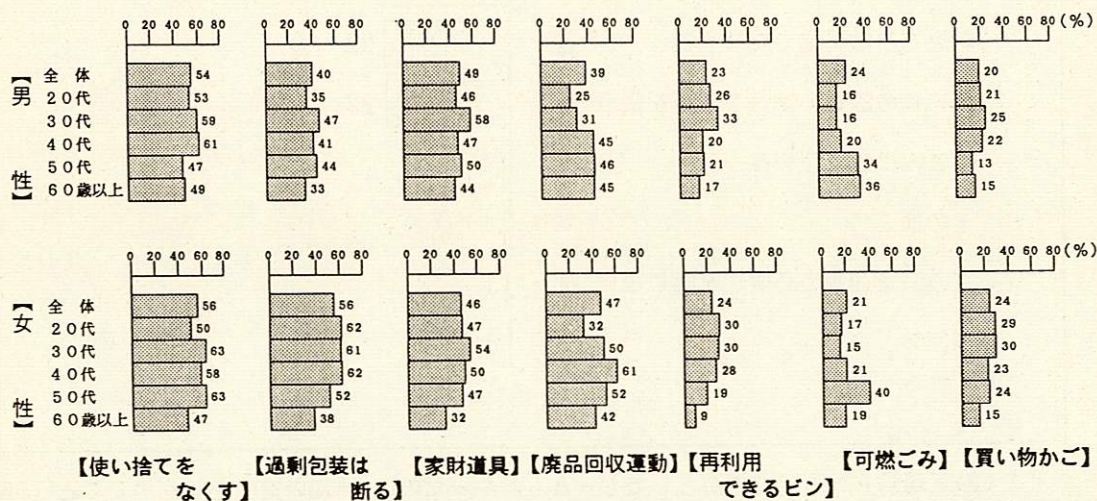
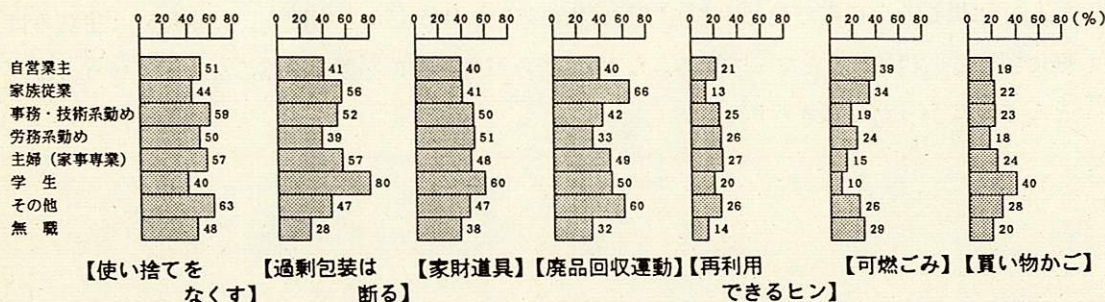
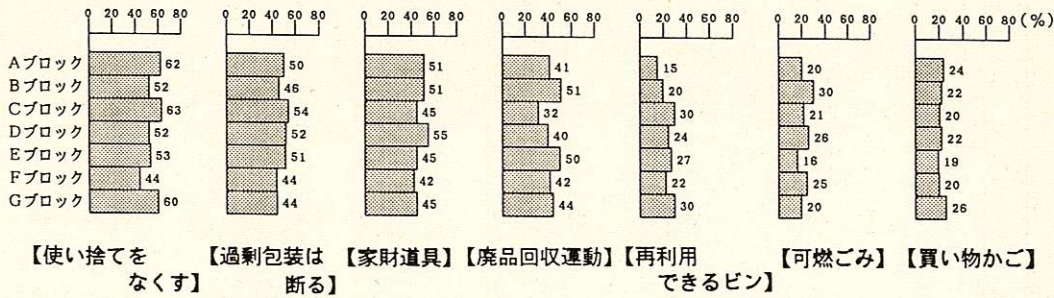


図8-11 職業別 ゴミ減量運動への協力



「使い捨てをなくす」ことを挙げた人は、どのブロックでも40%以上になっているが、とくにA、C、Gブロックでは60%を上回っている。もっとも少ないのはFブロック（44%）である。「廃品回収運動に参加する」という人はBブロックとEブロックでは50%を上回っているが、Cブロック（32%）では平均よりも10ポイント以上少なくなっている。「可燃ごみは自宅で焼却する」という人はBブロックで目立っており、30%に達している（図8-12）。

図8-12 地区別 ゴミ減量運動への協力

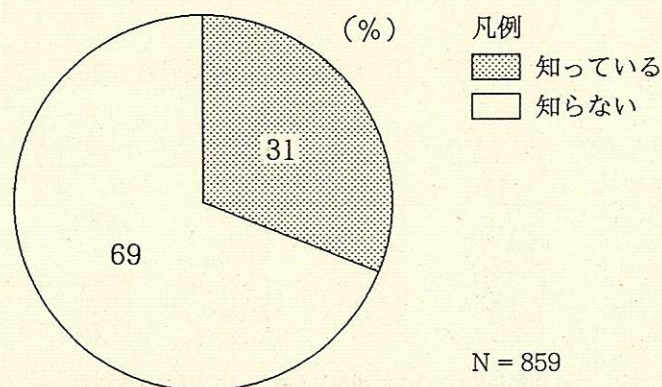


8-4. 資源回収実施団体への報償金交付制度の周知度

◎周知度は31%。

問22 市では資源回収を実施している団体に報償金を交付していることを知っていますか。

図8-13

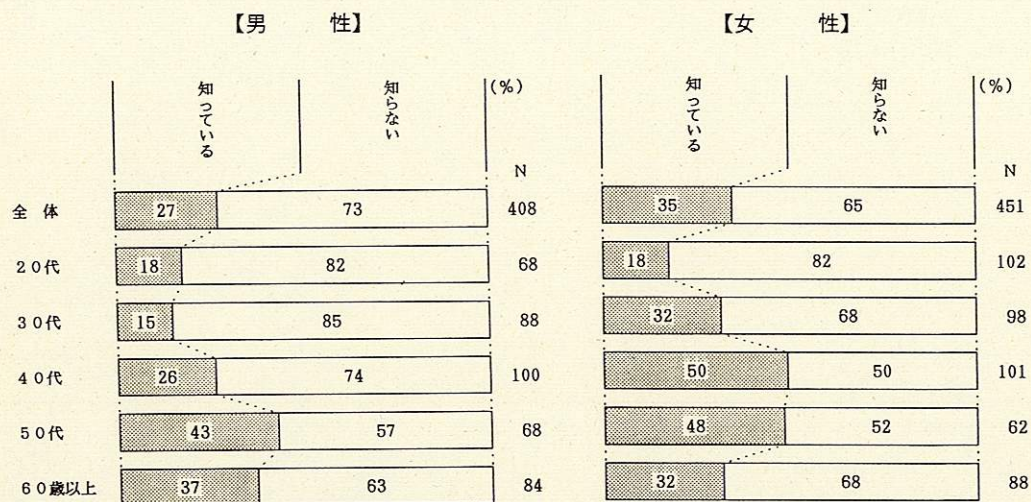


市では資源回収を実施している団体に報償金を交付しているが、このことについて「知っている」という人は31%、「知らない」という人は69%だった(図8-13)。

「知っている」という人は、男性が27%なのに対して女性は35%である。

男性では年齢が上昇するとともに周知度が高くなっている。一番低い30歳代が15%なのに対して50歳代は43%、60歳以上は37%である。女性では40~50歳代でもっとも周知度が高く、ほぼ半数の人が「知っている」と答えている(図8-14)。

図8-14 性別・性年齢別 資源回収実施団体への報償金交付制度の周知度



職業別では、もっとも周知度が高いのは家族従業の人（50％）である。また、家族従業の人、自営業主、専業主婦のほうが勤め人よりも周知度が高くなっている（図8－15）。

地区別では、GブロックとBブロックで周知度が目立っている。また、Fブロックでは8割の人が「知らない」と答えている（図8－16）。

なお、福生市への居住開始時期との関連を見ると、古くから住んでいる人で周知度が高くなっている。昭和60年以降に住み始めた人では、「知っている」と答えたのは15％だけだが、昭和30年代に住み始めた人では45％が、昭和29年以前に住んでいたという人では43％が「知っている」と答えている（図8－17）。

図8－15 職業別 資源回収実施団体への報償金交付制度の周知度

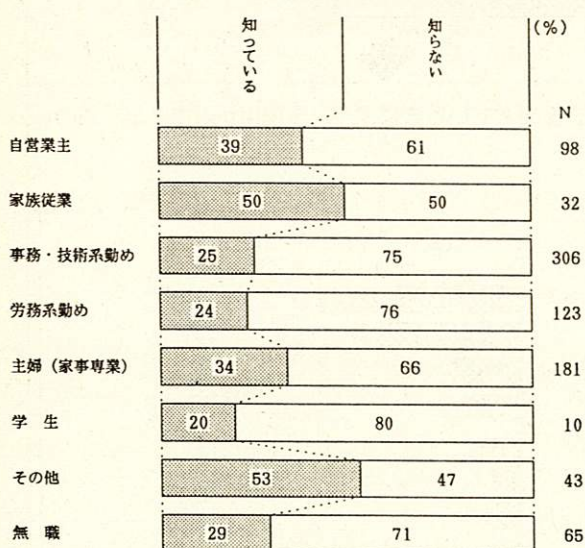


図8－16 地区別 資源回収実施団体への報償金交付制度の周知度

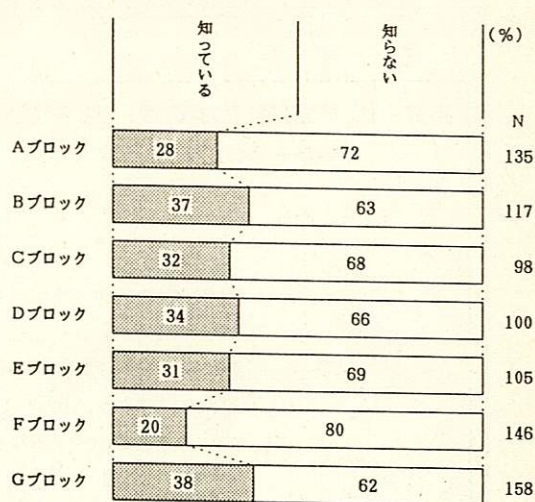
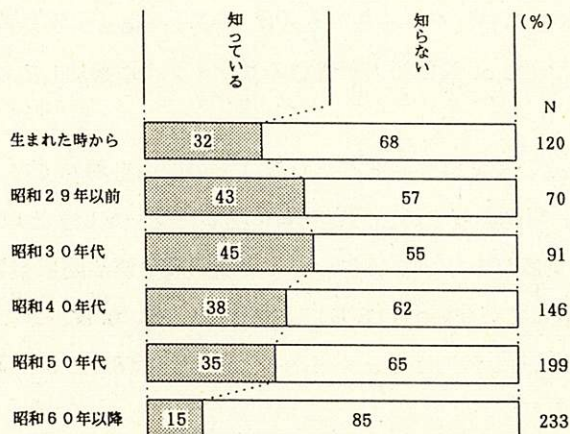


図8－17 居住年数別 資源回収実施団体への報償金交付制度の周知度

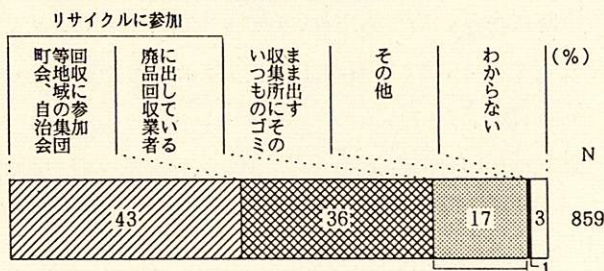


8-5. 再利用ゴミの処理方法

◎8割の人がリサイクルに参加。

問23 あなたは、新聞、雑誌、空ビン、鉄類などのような再生できるものは、どのように処理していますか。この中から主なものを1つだけあげてください。

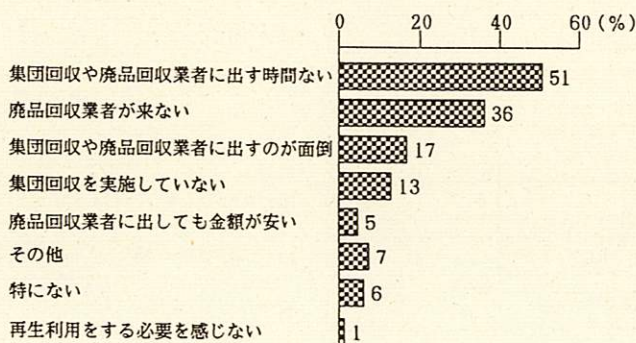
図8-18-①



問23-1 問23でいつものゴミ収集所にそのまま出しているのはどういう理由からですか。この中から2つまであげてください。

図8-18-②

N = 150



新聞・雑誌、空ビン、鉄類のような再生可能なゴミの処理方法について質問してみた。「町会、自治会等地域の集団回収に参加」しているという人は43%、「廃品回収業者に出している」という人は36%である。合わせて80%弱の人が資源のリサイクルに参加していることになる（図8-18-①）。

「いつものゴミ収集所にそのまま出す」と答えた人にその理由を尋ねてみた。

もっとも多かったのは、「集団回収や廃品回収業者に出す時間がない」ということ（51%）である。次いで、「廃品回収業者が来ない」（36%）、「集団回収や廃品回収業者に出すのが面倒」（17%）、「集団回収を実施していない」（13%）となっている。なお、ゴミの「再生利用をする必要を感じない」という人（1%）はほとんどいなかった（図8-18-②）。

「集団回収に参加」しているという人も「廃品回収業者に出している」という人も、男性よりも女性で若干多くなっている。

男女とも、20歳代では「いつものゴミ収集所にそのまま出す」という人が比較的多く、男性で38%、女性で29%になっている。女性の場合、「廃品回収業者に出している」という人は20歳代（46%）でもっとも多く、年齢が上がるとともに少なくなる傾向が見られる（図8-19）。

「集団回収に参加」しているという人が目立つブロックはBブロック（56%）とEブロック（50%）である。「廃品回収業者に出している」という人が目立つのは、Gブロック（46%）とAブロック（42%）である。また、Eブロック（23%）とGブロック（22%）では、「いつものゴミ収集所にそのまま出す」という人が若干多くなっている（図8-20）。

図8-19 性別・性年齢別 再利用ゴミの処理方法

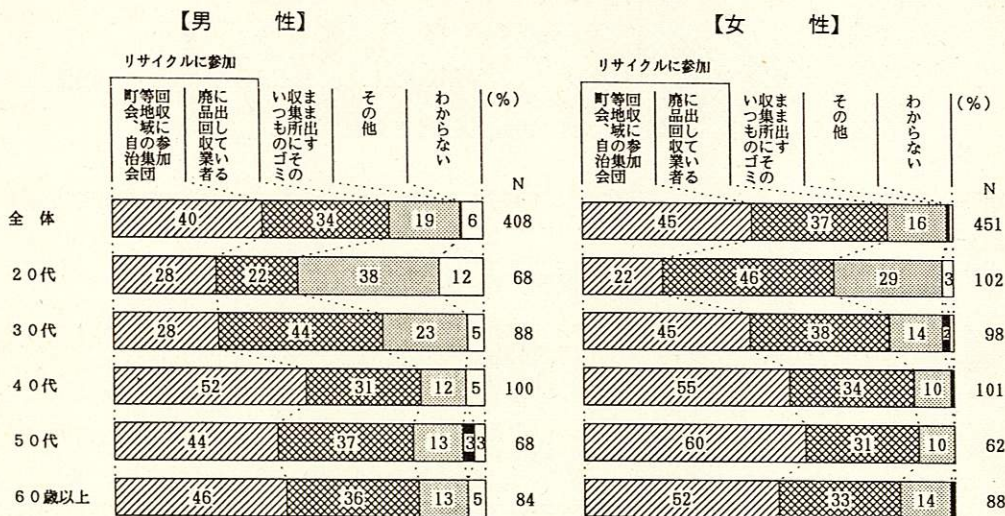
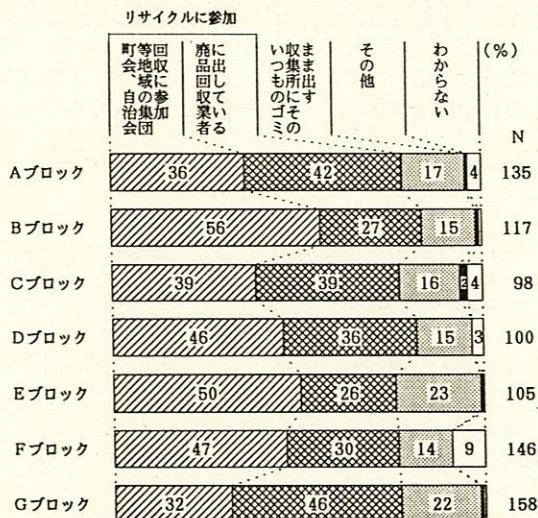


図8-20 地区別 再利用ゴミの処理方法

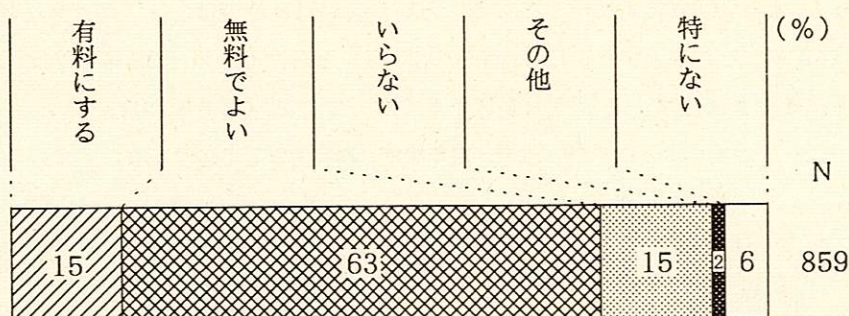


8-6. スーパーマーケット等で渡される無料のビニール袋について

◎「無料でよい」という人が63%、可燃性のゴミはすべてスーパー等のビニール袋に入れて出すという人が84%。

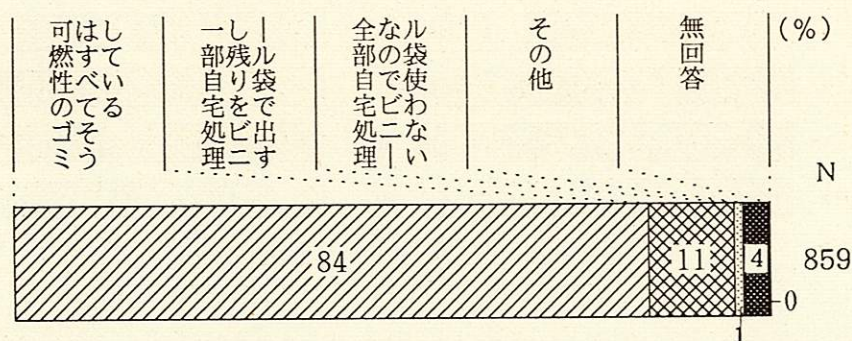
問24 あなたは、スーパーマーケット等のレジで渡される無料のビニール袋についてどう思いますか。

図8-21-①



問25 お宅ではスーパーマーケット等のビニール袋に、可燃性のゴミを入れて捨てていますか。

図8-21-②



スーパーマーケット等で渡される無料のビニール袋について、「有料にする」べきだという人は15%、「無料でよい」という人は63%、「いらない」という人は15%である（図8-21-①）。

無料のビニール袋については、性別による差異はほとんど見られない（図8-22）。

「有料にする」べきだという人は、30歳代の女性（19％）でとくに多い。「無料でよい」という人は、男性の場合は20歳代（72％）でとくに目立つが、女性の場合は60歳代以上の高年齢層で目立つ。「いらない」という意見は40歳代の女性（20％）で目立っている（図8-22）。

職業別では、「無料でよい」という意見は労務系勤めの人（72％）で多く、「いらない」という人は自営業主（22％）で目立っている（図8-23）。

地区別では、Gブロックでは「無料でよい」という意見（70％）が、Eブロックでは「有料にする」べきだという意見（20％）が目立っている（図8-24）。

図8-22 性別・性年齢別 スーパーのビニール袋について

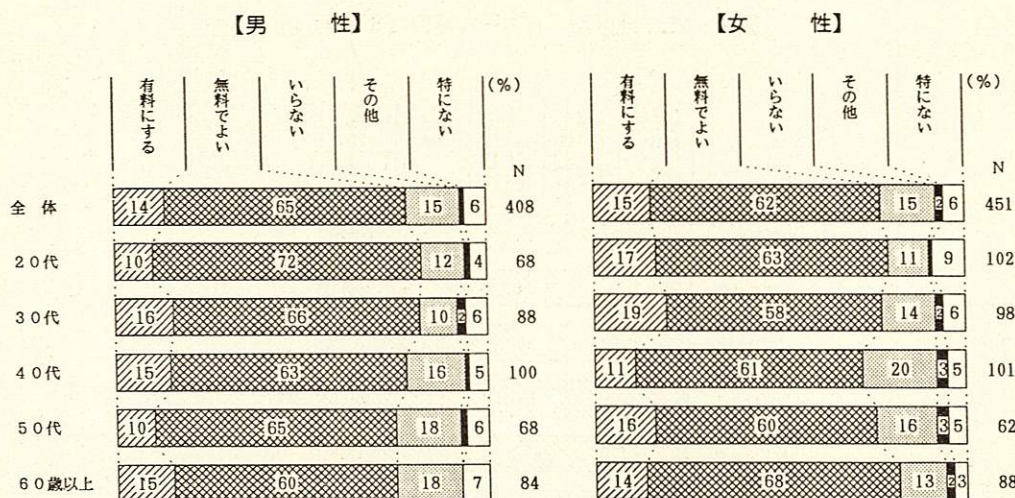
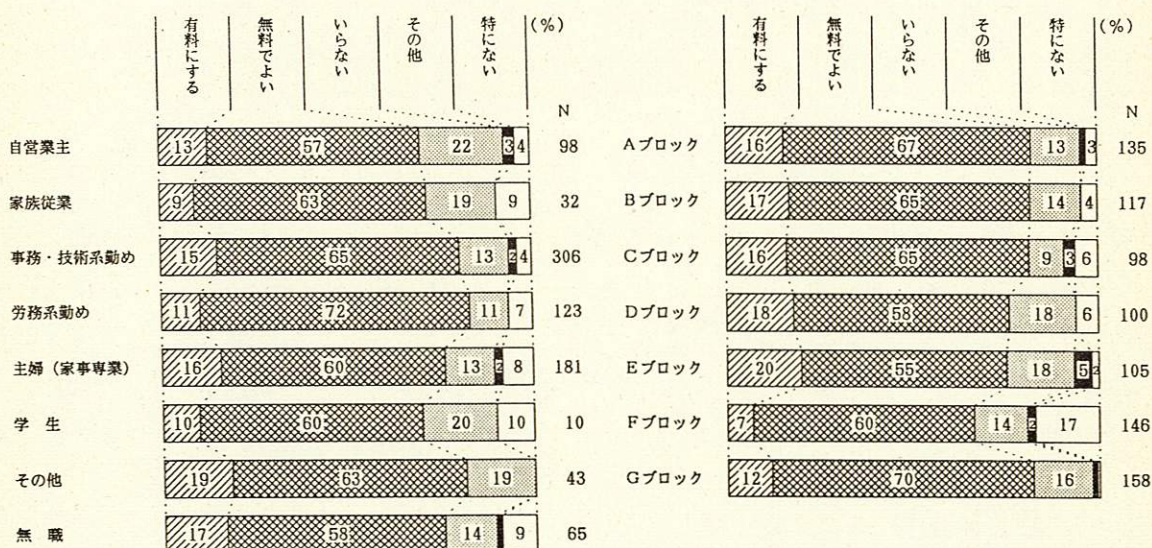


図8-23 職業別

スーパーのビニール袋について

図8-24 地区別

スーパーのビニール袋について



次に、スーパーマーケット等でもらったビニール袋に可燃性のゴミを入れて捨てているかどうかを質問した。

「可燃性のゴミはすべてそうしている」という人は84%、「一部自宅処理し残りをビニール袋で出す」という人は11%、「全部自宅処理なのでビニール袋は使わない」という人は1%である(図8-21-②)。

地区別でみると、「一部自宅処理し残りをビニール袋で出す」という人が多いブロックは、Bブロック(19%)とFブロック(16%)である(図8-25)。

図8-25 地区別 ビニール袋のゴミ処理利用

